

## 北海道新幹線 札幌駅ホーム位置に関する確認事項

札幌駅のホーム位置については、平成28年4月より、北海道、札幌市、鉄道・運輸機構、JR北海道の4者で協議がなされ、平成30年2月からは国土交通省を加えた5者で協議がなされてきたところであるが、本日、協議の結果として以下を確認する。

1. 地元(北海道、札幌市、JR北海道)は、地元経済団体等の意見も踏まえ、利用者の利便性や将来の拡張性、地域活性化等の観点から総合的に判断した結果、東案(その2)が望ましいとの意向を示したこと。
2. 認可見直し案と東案(その2)との工事費の差額については、JR北海道が負担すること。
3. 上記を踏まえ、東案(その2)を採用することとし、鉄道・運輸機構においては、新幹線と在来線との乗換え跨線橋等<sup>注)</sup>を除く施設の基本設計終了後、速やかに工事実施計画の変更認可に係る所要の手続きを行うこと。なお、更なる利便性の向上について、コスト縮減の観点も踏まえ、引き続き、関係者間で検討すること。

注)JR北海道による在来線改良工事として実施

平成30年3月29日

## 北海道新幹線札幌駅ホーム位置に係る経済団体との懇談

日時：平成30年3月17日（土）11:00～11:50

場所：ホテルポールスター札幌 4階 ライラック

### ■ 各団体からの主な発言

#### 【北海道商工会議所連合会 岩田会頭】

- ・ 身体の不自由な方でも安心して移動できるなど、円滑な乗換や、全道各地に向けて、バスなど他の交通機関とのシームレスなアクセスが確保される駅であってほしい。
- ・ 「東案その2」の場合、新幹線から在来線の移動距離が長くなることから、動く歩道などの設備を設けていただきたい。

#### 【北海道経済同友会 横内代表幹事】

- ・ 今後の利用客の増加を見込むと、駅のスペースの確保が必要であり、将来性を考えると「東案その2」の方がメリットがある。
- ・ 最終案が固まった場合には、新駅の実現、札幌市の都市計画に関して、経済同友会として全面的に応援してまいりたい。

#### 【北海道観光振興機構 堰八会長】

- ・ インバウンドの増加など、2030年度の札幌開業の時期を見込むと、現駅の中にホームをつくるには無理があり、「東案その2」がよい。
- ・ 「東案その2」の場合、一般乗用車の乗り入れスペースの確保が期待できる。

#### 【北海道経済連合会 瀬尾専務理事】

- ・ ポイントは、利便性の向上、快速エアポートの増便との両立、ゆとりある設計も含めて、将来に向けた拡張性をしっかり確保しておくこと。VIPラウンジなど、お迎え施設の整備が必要。
- ・ 札幌延伸の効果を道内各地に波及できるよう、道経連としても、全面的に協力してまいりたい。